



# 令和5年度 森上小学グランドデザイン

学校教育目標 「明るく直き心」

令和5年度 教育理念  
「考える学校」

～児童の「わからなさ」を基盤に～

「考える学校」を合言葉とする学校づくりと、自分の「わからなさ」を表出できる対話的な活動によって考える力を高め、コミュニティの中で主体的に追究する学び手を育てる。

## 《目指す子どもの姿》

自他を大切にする  
優しく温かい子

思いやりの  
ある子

豊かな人間性

たくましい  
子

健康・体力

あきらめず挑戦し、  
粘り強くやり抜く子

考える子

資質能力の育成

自分の考えをもち、  
自分で判断できる子

## 【目指す学校像】 「授業で子どもを育てる学校」

### 【教育課題と重点】

#### 教育課題

学びのコミュニティをつくること（3年次）

#### 重点1：授業づくり

個別最適な学びを生む授業改善を軸に、子どもの「わからなさ」や「疑問」に寄り添いながら、友と関わり合う協働的な学びの質を高め、子どもが自分の学び方を習得していくことができる指導

#### 重点2：集団作り

生活上の諸問題の解決に向けた協働的な活動を通して、人やものに対する自分の在り様や集団における自分の役割を自覚しながら、思いやりや支え合いができる人間関係をつくる。

#### 自分の学びを友と共に追究する子どもの姿

～「明るく直き心」をもつ子どもの具体～

【考える子】

筋道を立てて整頓した自分の考えや思いを、他に発信できる児童

【思いやりのある子】

集団における学習や生活の中で、他者との関わりや自分の在り様を考え実践できる児童

【たくましい子】

学習の問題や生活上の課題などに、見通しをもって継続して解決を図ろうとする児童

### 【本校の教育システム（教育課題の解決に向けて）】

#### ○自分の学びを、友と共に追究する子どもが育つ学習システム

- ・「自分が選択する」「自分が決定する」「自分が答えをだす」ことを中核に据えた、対話的な問題解決型の学習・生活環境の中で、子どもの主体性と考える力の向上を図る。
- ・インクルーシブ教育の視点を生かした教師からの能動的なアプローチによって、子どもの「困り感」「わからなさ」を表出する力の向上を図る。

#### ○職員の研修システム

- ・毎週月曜日に「教師の構えや指導感を共有し、子どもへの指導や支援のスキルアップを図る重点研究」を推進する。
- ・職員のキャリアアップやスキルアップを図る研修体制を整備する。研修内容は、授業づくり・マネジメント研修、校内外における自己課題研修、タブレット活用研修とする。

## 「学びのコミュニティづくり」を推進する森上小学校グランドデザイン

### 教育理念：考える学校 ～児童の「わからなさ」を基盤に～

昨今、世の中は学校に ICT や ESD 等、多くのことを要求します。でも、たとえ時代がどんなに変わっても「弱者を救う」という学校の立場は何も変わりません。私たちが忘れてはいけないこと、続けて取り組まなければならないことがある、そんな思いで一昨年度からこの教育理念を掲げています。

今年度も森上小学校は「考える子」を育てることのできる学校を目指します。先進的な取り組み、新しい取り組みになどにももちろんチャレンジし、子どもが自ら伸びようとする主体性を育てることのできる学校でありたいと思います。それと同時に、「わからなさ」や「困り感」を表出することのできない子どもたちにも、積極的にアプローチすることを同じように大切に、「子どもに考えさせる学校」ではなく「子どもたちが考えることができるように、教師が考える学校」でありたいと思います。

### めざす学校像：授業で子どもを育てる学校

キャリア教育の「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」といった、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力は、教育課程全体を通じて育成を図ることが重要とされています。この資質・能力はまさに「生きる力」。特別活動のような特設の単元だけで培えるものではなく、子どもたちの一日の大半を占める「授業」の中で培うべきものです。この考えに沿うと、授業で育てるのは学力だけではないという考え方が大切なのです。国語や算数の学習をする中で高まった学力を認知するのと同じくらい、課題に対して頑張れた自分、集団（社会）の中でうまくやれた自分などを認知できるようにしていく、そんな授業が求められています。「授業を通して人間を育てる」ことを大切にしようとした、森上小学校のめざす学校像は、学習・生活を一体的に捉え、その根底に流れる「主体性や思考力を育てる」ことを大切にしようとしています。たからこそ、授業は「仲間や先生と共に新たな世界に出会う時間、他者と対話する時間、そして新たな自分の可能性を見出して自己肯定感を高めていく時間。その時間の中で知識や技能を獲得していく」であることを、再度確認したいと思います。

### 教育課題：学びのコミュニティ（学習集団）をつくること（3年目）

本校のコミュニティは、同じ教室で学習する児童が、学習集団として大切にしたいことを共有し、大切にしたいことを実現できるように、自分はどうあるべきかを一人一人が考えている学習集団のことを指しています。一昨年度は「子どもが思考すること」について、昨年度は「インクルーシブ教育」の視点を取り入れ、子どもたちの学びのコミュニティの活性化を図ってきました。三年次となる今年度は、「子どもの主体性を共有できる」コミュニティです。

主体性とは、「何をすべきか決められていないこと」に対し、**自分の意志・判断**により自ら**責任をもって行動する態度や性質**のことを指します。では、学校生活におけるその姿の具体は何か、それは「**自分で選択する姿**」「**自分で決定する姿**」「**自分で答えを出す姿**」に集約されます。

この姿の具現には、問題の答えを出すときに、どのような方法で学ぶかを子どもが選択できるようにする、自分が集めた情報を整理して「これでよい」と決定できるようにする、選択し決定したことによって得られた自分の最適解を見いだすことができるようにする、といった授業の構造が不可欠です。

このような授業の中で学ぶ子どもたちには、学力と共に社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力が身についていくことは、昨年の六年生が実証してくれました。今年度はより多くの学年・学級でこの教育課題に向き合っていただければと思います。

子どもが慣れないうちは、三つの主体的な姿が発揮できない子どもたちが多いと思います。そんな時は、右のインクルーシブ教育の視点に戻って問いかけるところから始めましょう。これもまた主体性を導くアプローチです。

焦らず、気長に、目標をもって…一年間よろしく願います。

#### 「インクルーシブ教育」

子どもたちが授業や活動の内容を理解し、「そこに参加している、ついていけている」という実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごせるようにする教育。

- ① 何に困っているのか
- ② 自分はどうしたいのか。  
どうなりたいのか
- ③ 大人（教師等）にどうして（何を）してほしいのか